

植民地責任から問う 靖国神社、合祀の罪 準備編

政教分離や公式参拝、A級戦犯合祀問題など、様々な観点から批判や議論が続く靖国神社。しかし、植民地朝鮮や台湾を支配する道具として機能したことや、そこでの合祀の意味について、テーマになることはほとんどありません。東学農民軍や義兵を虐殺した日本軍人や憲兵と一緒に「神」となって合祀されていること、あるいは日本の侵略に動員された末の死を「天皇のために命を捧げた」とされることが、遺族にとってどれほど屈辱的なことなのか、想像する機会はこれまであったでしょうか？

ドキュメンタリー映画『あんによん・サヨナラ』を鑑賞した後、韓国の専門家とオンラインでつないで靖国合祀の問題について解説していただきます。

日時：2023年4月29日(土・休) 15:00~17:30

会場：wam オープンスペース(定員40名/予約制・先着順)

参加費：1000円



*後日配信/ライブ配信はありません。

*お申し込みはQRコードからGoogleフォームで。電話での申し込みも可能です。

映画上映：『あんによん・サヨナラ』

キムテイル
(監督：金兌鎔、共同監督：加藤久美子/2005年/107分/「あんによん・サヨナラ」制作委員会)

イヒジャ
日本軍に徴用された父と幼い頃に生き別れた李熙子さん。日本政府からの通知はなく、父に関する記録は1990年代に初めて入手する。父が命を落とした中国へ旅をし、靖国合祀取り下げを求める李熙子さんと、その願いを叶えようとする日本の友人との交流を描いた日韓共同制作によるこのドキュメンタリーは、釜山国際映画祭ドキュメンタリー部門最優秀賞を受賞。

アフタートーク：南相九(東北アジア歴史財団 研究政策室長)

2005年から「日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会」で遺骨や靖国合祀の記録等について調査、2007年から東北アジア歴史財団研究員。2021年から現職。戦後日本における戦争犠牲者の記憶・補償の問題や日韓の歴史問題を主に研究。ノー！ハプサ(合祀)2次訴訟では意見書を提出。歴史学博士(千葉大学)。

会員になりませんか？

●友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次お知らせします。維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「女たちの戦争と平和人権基金」係

wam

アクティブ・ミュージアム

女たちの戦争と平和資料館

women's active museum on war and peace

開館時間：金・土・日・月 13:00~18:00
2月11日、2月23日、4月29日、11月3日は「祝わない」ため開館

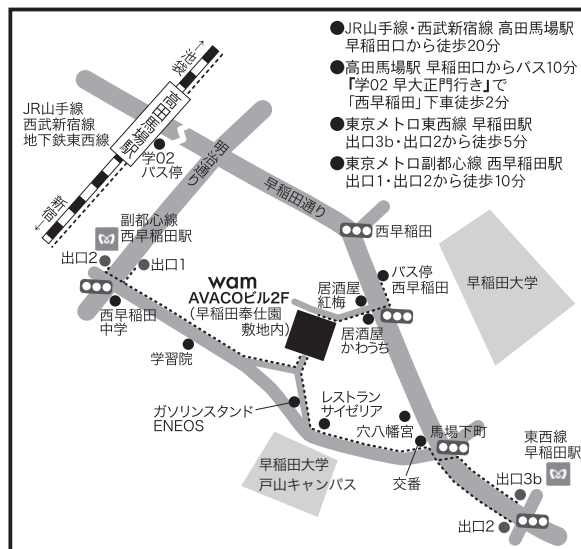
休館日：火・水・木・祝日(天皇制由来の上記4日を除く)

※時間外の団体来館はご相談ください。
※展示入れ替え期間と年末年始は休館となります。

入館料：18歳以上 500円
18歳未満 300円
小学生以下 無料

※障害のある方の付き添いは無料です。

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F 〒169-0051
T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E:wam@wam-peace.org
URL:https://wam-peace.org Twitter:@wam_peace



植民地責任から問う 靖国神社、合祀の罪

1991年に金学順さんが日本で提訴した際に同行した李熙子さんは、記録の重要性を金学順さん(日本軍「慰安婦」被害者)から学んだといいます。熙子さんは1992年に被徴用死亡者連名簿を、1996年には留守名簿を確認し、中国で戦死した父が靖国神社に合祀されていることを知りました。なぜ遺族には何も知らせず、創氏名のままで、しかも韓国が独立した後の1959年に父は合祀されているのか？ 靖国神社とともに、名簿を渡した日本政府・厚生省の責任についても、次々と記録を入手して追及してきました。

セミナー翌日の5月26日には、第2次靖国合祀取り下げ訴訟の東京高裁判決が予定されています。靖国神社に合祀を取り下げさせ、墓石に本名を刻みたい、どんなに日本の裁判所が理不尽でも、韓国の遺族と日本の支援者とともに闘い続ける、と語る李熙子さん。当日は、植民地歴史博物館が撮影・編集したこれまでの調査活動の映像を観てから、お話を聞きます。ぜひ、李熙子さんに会いにきてください。

日 時：2023年5月25日(木) 18:00～20:00

お 話：イ ヒジャ李熙子さん(太平洋戦争被害者補償推進協議会代表) キム ヨンファン通訳：金英丸さん

会 場：wam オープンスペース(定員40名/予約制・先着順)

参加費：1000円

*本セミナーは、韓国の植民地歴史博物館と共催で行います。



*オンラインは後日配信のみになります。

お申し込みは右記QRコードからGoogleフォームで。wam事務局にメールをくださればURLをお送りします。
会場参加のみ電話での申し込みも可能です。

【ゲスト紹介】い・ひじゃ

1943年、韓国・江華島生まれ。日本軍に徴用された父親とは生後13ヵ月で生き別れ、1989年から太平洋戦争犠牲者遺族会に参加して父の死亡記録、合祀記録に出会う。2001年、父の合祀取消しを求めて東京地方裁判所に提訴。同年に設立された太平洋戦争被害者補償推進協議会の代表として、日本や韓国で提起された朝鮮人の強制動員に関わる数多くの裁判を実質的に支えている。



◆wamセミナー 天皇制を考える◆

wamは、「女性国際戦犯法廷」(2000年、東京)から20年の節目にあたって、2020年9月から天皇由来の「祝日」のうち4日間を「祝わない」ために開館することにしました。天皇の戦争責任・植民地支配責任を問い、天皇制を維持してきた責任を見つめなおすために、タブーなく天皇制について議論できる「場」をつくっていきます。